

會 務

土木學會誌 第十卷第四號 大正十三年八月

- 大正十三年五月二十七日土木學會震害調査委員會第二部會第二回委員會を開く
廣井委員長物部主査阿部, 雨宮代(小西)大河戸, 樺島, 木村, 清水代(水野)田中
内藤, 藤田, 藤宮代(緒方)眞島, 谷井, 山内, 渡邊の各委員沼田幹事奥田, 宍道の兩
事務囑託出席す
- 同年同月二十八日同上第六部會第四回委員會を開く中山會長廣井委員長牧主査
朝倉代(國富)雨宮, 清水, 高田, 伴, 平山, 牧野, 百瀬, 山本, 渡邊(英保)の各委
員沼田幹事出席す
- 同年六月六日同上第五部會第二回委員會を開く森主査神原, 彭城, 高橋, 太刀川,
萩原の各委員沼田幹事出席す
- 同年同月七日伊豫田貢君に同上第二部會事務を囑託す
- 同年同月九日同上第三部會第五回委員會を開く杉浦主査稻葉, 小川, 河口, 高田代
(武部)高橋, 中野, 原, 伴, 茂庭の各委員沼田幹事出席す
- 同年同月十一日尾崎久助君及竹内六藏君に同上委員を囑託し又佐藤好君及福島
雅男君に同上第二部會中川喬一君に第三部會事務を囑託す
- 同年同月十二日役員會を開き中山會長丹羽副會長池田, 太田, 川上, 後藤, 竹内
八田, 伴の各常議員中原, 古川, 兩前會長井上, 丹治兩主事出席中山會長議長席に
着き次の事項を決議せり
△仙石前會長鐵道大臣に就任せられたるに付祝賀會を催すこととし大臣の都合
を聞合せたる上日取を決定すること
△來る七月二日講演會を開催することとし右講演を會員太田圓三君並に同安藝
杏一君に依頼すること
- △其他會務に關する事項
- 同年同月同日編輯委員會を開き金森委員長川口, 野口, 平井, 谷井の各委員沼田
囑託出席會務編輯上に付協議を爲せり
- 同年同月十六日土木學會震害調査委員會を開き安藝主査青山, 稻葉, 乾, 清水代
(水野)竹村代(藤田)辰馬, 田村, 伴の各委員沼田幹事出席す
- 同年同月二十日前會長工學博士仙石貢君鐵道大臣就任祝賀會を開催す當日出席

者七十三名午後六時四十分開會デザートコートに入り中山會長の祝詞に次ぎ仙石鐵道大臣の挨拶其他古川 前會長那須、宮長の兩會員の祝詞演説あり盛會裡に同八時散會せり

○同年同月二十三日土木學會震害調査委員會主査會第二回會議を開く廣井委員長 物部、杉浦、森、牧の各主査沼田幹事出席す

○同年同月二十六日土木學會高速度鐵道調査委員會第五回特別委員會を開く大河 戸主査西、古川、物部、山崎の各委員沼田幹事野坂事務囑託出席す

○同年同月三十日土木學會震害調査委員會第一部會第四回委員會を開く中山會長 安藝主査青山、石川、乾、清水代（水野）辰馬、田村、伴代（藤田）真島の各委員 沼田幹事出席す

○同年七月二日午後五時より麴町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會に於て第三十五回講演會を開催し下記の講演ありたり當日は中山會長外役員及會員、會員 外のもの共併せて百五十餘名の來聽者ありたり尙閉會後同所に於て晚餐會を開 き四十五名の出席者あり盛會裡に同九時半散會せり

△帝都復興計畫に就て 會 員 太 田 圓 三君 復興局土木部長

△横濱港の震害と復舊工事 會 員 安 藝 杏 一君 内務省横濱土木出張所長

○同年同月十四日編輯委員會を開き金森委員長川口、野口、谷井の各委員沼田囑託 出席會誌編輯上に付協議を爲せり

○同年五月十六日より七月十五日迄に入會を承認し名簿に登録したるもの次の如 し（○印ハ准員ヨリ△印ハ學生 員ヨリ轉シタルモノヲ示ス）

會 員 (八名)

○伊津野憲亮君 井上隆根君 木原英一君

○佐藤清一君 ○山中良樹君 ○吉田鏡君

○樋口操君 ○藤井彌太郎君

准 員 (二四名)

秋山樵平君 安藤太郎君 △井上清太郎君

伊澤貞吉君 伊藤民夫君 △市川恒君

△稻浦鹿藏君 大平一君 △岡田倍治君

△長田純二君 △權藤濟美君 鈴木教一君

田島正彦君 △坪田正造君 南保忠二君

野 崎 銑君	樋 口 正 名君	福 光 平 吾君
△福 森 宇 三 郎君	逸 見 尙 義君	△北 條 次 男君
堀 越 知 三君	△本 莊 秀一君	△見 山 剛君
學生員 (二七名)		
有 馬 宏君	井 上 秀 夫君	岩 崎 二 郎君
磯 谷 道 一君	大 川 一 郎君	川 上 暢 夫君
小 泉 正 己君	小 山 猛 三君	河 野 靜 夫君
坂 本 雅 雄君	芝 谷 常 吉君	杉 戸 清君
辰 村 國 治君	田 中 民 夫君	道 法 重 雄君
中 明 宅 次君	平 井 寬君	平 井 彌 之 助君
福 島 三 七 治君	福 西 正 雄君	町 田 保君
松 村 孫 治君	宮 越 義 重君	宮 村 茂 雄君
山 崎 柱 一君	山 本 幸 夫君	渡 部 彌 作君

○同年六月一日より七月十五日迄に寄贈及交換を受けたる雜誌其他下記の
通なり

寄贈を受けたる分

大坂港勢一斑	大正十一年度	一冊	大 阪 市 役 所
土木建築雜誌	第三卷第五六號	二冊	シ ビ ル 社
滿洲技術協會誌	第一卷第一號	一冊	滿 洲 技 術 協 會
工 政	第五六號	一冊	工 政 會
工 學 報 告	第四卷第一號	一冊	東 北 帝 國 大 學
工 學 部 紀 要	第一二卷第一號及 第一三卷第二一七	七冊	東 京 帝 國 大 學
工 業 評 論	第一〇卷第六號	一冊	工 業 評 論 社
港 灣	第二卷第四號	一冊	港 灣 協 會
外國學術雜誌目錄	第二版(十年來現在)	一冊	學 術 研 究 會 議

交 換 の 分

鐵 と 鋼	第十年第五六號	二冊	日 本 鐵 鋼 協 會
工業化學雜誌	第二七編第六冊	一冊	工 業 化 學 會
建 築 雜 誌	六月號	一冊	建 築 學 會
大正七年度鐵道災害記事		一冊	鐵道大臣官房研究所

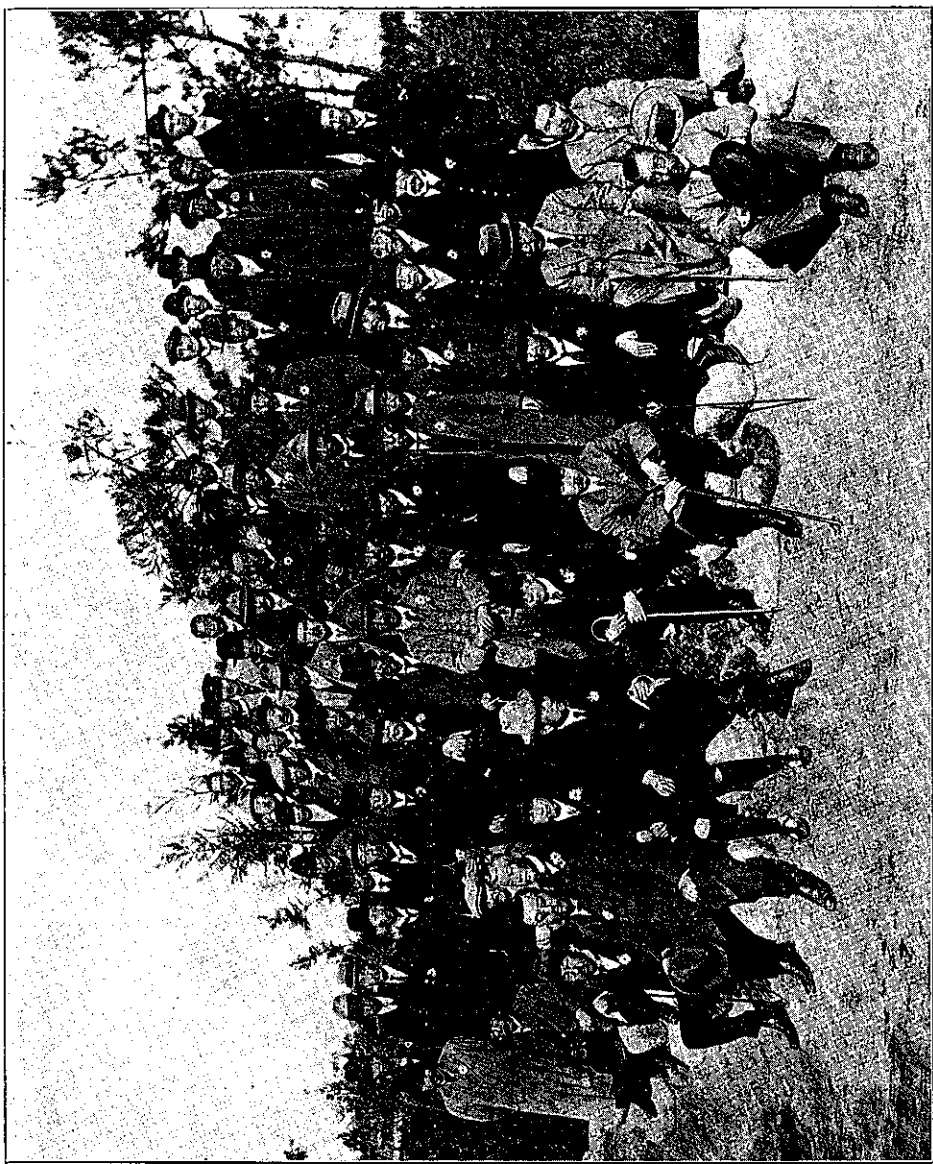
業務研究資料 第一二卷第五六號
 機械學會誌 第二七卷第八六號
 現代生活に於ける電氣

二冊
 一冊
 一冊

同
 機械學會
 電氣學會
 澤元治氏

上
 會
 長
 治
 氏

(土木學會第十屆年會合影)



土木學會第九回視察旅行團

土木學會第九回視察旅行記事

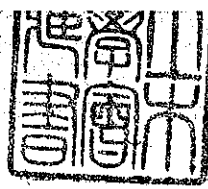
大正十三年四月廿七日(日曜日)土木學會第九回視察旅行を東京市村山貯水池及境淨水場に行つた。

朝八時三十分新宿驛發の中央線列車に乗込み國分寺驛で川越鐵道に乗換へ東村山驛に向ふ。雨上りの晴れた空と若葉のほのかな香りとが一行を殊の外喜ばせた。

東村山驛からは工事用の輕便鐵道で貯水池に運ばれ最近竣功式を擧げた上貯水池の堰堤の休憩所で會員にして工事擔當者たる中野昇氏より貯水池工事概況の説明あり終つて中食の御馳走になつた。所澤とかの美しい連中が酒間に斡旋した。食後は思ひ思ひに貯水池を見學した。

抑も東京市現在の水道は明治二十五年に起工し三十一年に竣工四十四年に更に其一部を増築したるもので西多摩郡西多摩村大字羽(俗稻羽村)で多摩川本流を取入れ舊玉川上水の水路を襲用して之を淀橋淨水所に導き沈澄濾過して市内に供給するもので水路の延長約 10 里給水豫定人口 2,000,000 一日一人平均最大給水量 4 立方尺全市一日給水量 8,000,000 立方尺であるが今度の擴張計畫では新に水路を造り其中間にこの村山貯水池や境淨水場等の設備を爲し淀橋淨水所と相俟つて給水量を高めあまねく全市に供給しやうとするもので、この水路延長約 9 里給水豫定人口 3,000,000 一日一人平均最大給水量 6 立方尺全市一日の給水量 18,000,000 立方尺即現在の給水能力の 2 倍にしやうとするものである。

この村山貯水池はこの擴張設計中の一特長をなすものであつて多摩川河水の豊富なる時に多量の水を取入れ貯溜し置いて河水涸渴し取水減少し給水量に不足を告ぐ場合の用意の爲めて調節の使命を帯びて居る次第である。所在地は正式に云ふと北多摩郡大和村字芋窪地先及字清水地先(通稱村山)でこの兩所に各土堰堤を築き天然の地形を利用して上下二つの大貯水池となつて居り、其貯水量は上貯水池大約 140,000,000 立方尺下貯水池 510,000,000 立方尺合計 650,000,000 立方尺即人口 3,000,000 人に對する 3 箇月分を貯水する計畫である。そして満水面の亘長 1 里全周圍實に 3 里餘、用地買收地域 1,100,000 坪満水總面積 482,000 坪と云ふすばらしいものである。現在は上貯水池だけ出來上り下貯水池は工事中であるが満々と湛へた碧水、之をめぐる新緑の雜木林、其中を縫つて居る立派な道路等をも併せて考へると兩池完成の曉には都人士にとつて亦絶好の散策地となること



と思はれる。

午後二時には此處を辭し往路を逆にとつて武藏境驛に下車同三時頃境浄水場を視察同所で説明をき、茶菓の饗應にあひ紀念撮影をして一日の清遊の幕を閉ぢた。

旅行參加者の氏名は下記の如くである。尙この旅行につき多大の便宜を與へられた東京市水道擴張課諸氏に厚く感謝する次第である。

參 加 會 員 氏 名 (五十音順)

青 木 勇 君	朝 倉 政 次 郎 君	井 上 秀 二 君
池 田 圓 男 君	池 田 勝 藏 君	市 來 尚 治 君
稻 垣 甚 君	遠 藤 藤 吉 君	大 井 清 一 君
大 岡 大 三 君	大 河 内 甲 一 君	片 野 文 吉 君
門 野 重 九 郎 君	樺 島 正 義 君	川 上 浩 二 郎 君
川 口 愛 太 郎 君	木 村 貫 一 郎 君	北 澤 惇 夫 君
國 澤 新 兵 衛 君	熊 谷 直 道 君	藏 重 哲 三 君
藏 重 長 男 君	彭 城 嘉 津 馬 君	佐々木 恒 太 郎 君
清 水 一 德 君	杉 浦 宗 三 郎 君	田 村 與 吉 君
高 木 義 照 君	武 和 三 郎 君	知 久 清 之 助 君
辻 太 郎 君	鳥 越 金 之 助 君	中 野 昇 君
西 出 辰 次 郎 君	丹 羽 鋤 彦 君	野 澤 房 敬 君
野 村 龍 太 郎 君	八 田 嘉 明 君	比 田 孝 一 君
廣 井 勇 君	發 地 長 太 郎 君	堀 内 貞 造 君
松 村 務 君	三 田 善 太 郎 君	宮 長 平 作 君
村 瀬 英 一 君	山 口 義 彦 君	山 本 潔 君
山 本 眞 三 郎 君		

土 木 學 會 職 員

青 木 通 雄 石 川 元 次 岡 田 鶴 雄 岡 村 又 市 鬼 海 治 三 郎
北 村 嘉 太 郎 是 永 英 雄 沼 田 政 矩 山 岸 倉 藏 (完)

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配附致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合一部に付左記金額振替口座東京一六八二八に拂込用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

殘 部 内 譯

第五卷一號二號	一 部 金 壹 圓
第六卷三號六號	同
第七卷一號二號三號四號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第八卷一號二號三號	同 金 貳 圓
第九卷一號二號三號	同 金 貳 圓
第九卷五、六號	同 金 貳 圓
第十卷一號二號三號四號	同 金 貳 圓
東京市内外交通に関する調査書殘部あり	金 參 圓

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

各員の宿所の不明なときは會誌の配付を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費の支拂には差支なき様御配慮相成たし

會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し必ず御支拂の事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立共支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に（拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事）御拂込相成度尙整理の都合有之候に付會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相成たし

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末日迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	金 費 年 額	自一月至四月 第一期分二月 徴 收	自五月至八月 第二期分六月 徴 收	自九月至十二月 第三期分十月 徴 收
會 員	金 拾 八 圓	金 六 圓	金 六 圓	金 六 圓
准 員	金 拾 貳 圓	金 四 圓	金 四 圓	金 四 圓
學 生 員	金 七 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 拾 錢

新に入會したるものは月割計算として入會の翌月集金書を發す

會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金集金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配付をも停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手数一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年二月四月六月八月十月十二月（印刷又は原稿等の都合に依り翌月上旬配付の事あり）に發行し漏なく配付すべきに付翌月末頃未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月経過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配付不可能のことあるべきに付御留意相成たし

會費領收報告

自大正十三年五月十六日
至同 七月十五日

受付分 (受付順)

會員大正十一年度第一期分會費

金四圓五拾錢 大西清

會員大正十一年度第二期分會費

金四圓五拾錢宛 宮島三郎

會員大正十一年度第三期分會費

金四圓五拾錢宛 細野芳彦
福田弘 谷井陽之助
大西清

會員大正十二年度第一期分會費

金六圓宛 大河戶宗治
平野武文 大西清

會員大正十二年度第二期分會費

金六圓宛 五十嵐三郎
中島麟太郎 西出辰次郎
榛葉孝平 岡村正雄
奥山龜藏 福田弘繁
大西清 高山節治
禪島益三 池原英治

會員大正十二年度第三期分會費

金六圓宛 安藝杏一郎
雨宮弘一 五十嵐三郎
池邊稻生 岩淵英之
內田泰郎 江山友直
小川敬次 小神門久太郎
釘宮秀吉 坂本助三郎
佐野藤次 杉浦宗三郎
高坂淺吉 橋原貞三郎
中西鍊次 中橋口行太郎
伴瀨一宜 福田十太郎
廣堀內貞 松宮川村長策
三米元晉 朝會政次郎
青生駒誠 池石上野有十郎
伊藤祥三 大塚藤十郎

掛札季藏

藤宮惟一
安倍強

小野榮作

木村貫一 耶景昇
高田 山口 簡二郎
奥村 中倉 專一

青木壽通 壽通藏
岩井芳慶 三郎
岡部梅三 耶夫藏
小川貫一 英軍春元
木佐藤 鈴木春元
鈴木復二 耶三郎
中山辰國 謙岩利昌
藤尾瀨部 元村田部
曲百渡有磯石大岡

福田弘

松山常次郎
鷯飼賢一

小溝茂橋

諏訪部博
横山德太郎
加々山學
楠田九郎
後藤運平

安藤新六
石坂二 耶範之
井上川全
小田塚晃忠
大菊池口榮一
坂橋嘉三 耶文
高山忠氏 耶二
中西井晴周 耶次
平井浦慶次 耶志
藤山本新美樹 耶夫
阿部木文 耶正
荒岩崎上窪 耶盛
尾崎昌

市人二吉靜博耶耶景耶源路稻一覺耶一助耶一耶榮喜耶耶香綠勉吉吉三雄次治耶耶一吉助治耶耶
 政芳雄敬秀部多四四金束晴太晴之六清大保次三朝久藤圓正久斌三九準源之平三雄
 田村門藤田訪木口田原鹽田川田笠田口邊川山永阪直井內井藤田村古東田井谷木刀和原
 神木久後竿諏鈴關高戶長原濱古丸武安山渡衣澤杉德古山衣荒池今遠太岡金笈工阪澤澁鈴大武豐

藏雄助耶夫多覽樹吉彦耶平明匡耶造藏彦直俊喜平治士輔耶耶吉二三樹耶耶哉守彦德耶耶榮
 季季之太博競恒茂興素太正嘉一三傳忠義唯孝平愛正太重太國貞大芳太治八猛孝一三三新
 札江米藤藤谷原揚村田島本田石島藤口田倉原葉田島飼川木海橋岡崎野又島藤良崎水英取崎
 掛川久後近澁菅關田津中橋八廣真武森山吉上栗榛坪林本大阿青磯江大岡狩勝若古相島清橋鷹寺

吾賀繼藏皎良藏茂耶智吉彦要路治治一耶吉耶茂平耶男耶次分耶夫司耶耶造耶男耶固介作耶與吉
 東正保士幸次利隆鋤正廣經英彌次惠定一三虎木伊亨太常善七高倍震忠三僑哇太峯
 川山保平藤多石谷谷橋葉根羽口口田輪瀨內村野邱本口田浦上田川藤山田藤他庄澤新藤賀田中山屋
 小景久小近白杉杉高千利丹原濱前三村山吉栗桑坂谷野三井芦荒伊上真大負川北近齋志柴園瀧土

耶勇志衛交吉通耶耶政義耶耶之彦耶耶隆耶治一次耶德一耶耶耶三誠洋行瑞耶道雄熙義一耶耶
 三忠兵泰賢博一二吉正次次敬芳三一正太忠義壯三尙惟四五五約保一武敏天三宗辰尙朔太
 信藤橋新山田村和正吉辰忠敬本野島喜田德山瀨山橋田宮邊野木橋野崎保天三宗辰尙朔太
 村藤橋新山田村和正吉辰忠敬本野島喜田德山瀨山橋田宮邊野木橋野崎保天三宗辰尙朔太
 岡加倉國小境杉杉田田富西原橋細宮村山橫和黑櫻高沼藤渡菅青石字沖尾大河金楠佐清下鈴田辻

介衛吉耶耶潔七允次雄藏松二耶三種耶三藏鼎吉祥弘耶松耶治作文耶象耶夫始平助三仲太苗
 雄廣重太治次傳之彥虎良茂熊太勝親太一經大文匡太繁一宗榮直九鹿太武三伊八祥多虎季
 野口木野庭本田木林澤泉茂川田口木井治吉川野村田田元井河野原田木井野口內川居藤本田
 仲野二星松茂山吉植小寺森今加十鶴溝山石丹有石片定福三秋岩大小河楠鈴筒平澁山小土內松池

耶助雄黨工亮二一政學夫作和勇武耶耶次志一耶哉二海介二兵耶温一橋實一三夫耶耶哉幣耶六吉
 太之正之隆耕重誠平義治次藤寬準一卓簡鳴謙禎利次清龍茂田榮保葬一太直耕次照勇
 良寅野井永瀬田田神々石長井原江安常川澤木岡田村橋下達海野澁保海塚原池瀨藤梨井山甲
 井口野平福松村山吉池加自宮今植澁津松森石鈴福石與坂中根山安內小小久新運野三用大高永丸愛

助耶雄喜亟輔昇生耶吉助耶敏實夫積之耶信藏覺喜一耶義稔助次吉三重豐久耶人一介望耶耶透也
 之三靜並樂之秋一之次成良信太龜條茂滿太悅敬之忠富織利田俊太直貫九公太治眞直
 金兵留雅武口川田藤開宅江田塚本野實田山大光島々西田井見田川村保藤中垣川井藏藤取井邊
 越田原福牧宮山湯池加新三市岩倉塚星珠池奧西有大佐高福谷淺內小岡久佐田中前名大佐鳥藤渡

雄耶男香二耶清平陸正任作助喜治耶作茂耶雄實吉愿恭一祐耶強一耶雄一耶甫熊代耶胖作吉介一
 正太光滋元五陽治義義健之護正一信次俊榮利廉全四賢次前敬三新勇喜七長嘉惟
 寺春見井原野田內田置牛田龍眞正一信次俊榮利廉全四賢次前敬三新勇喜七長嘉惟
 福桐見井原野田內田置牛田龍眞正一信次俊榮利廉全四賢次前敬三新勇喜七長嘉惟
 東中能藤保水山山和笠坂松山今木竹原村橫岡中新稻佐瀧平村安鶉小大久小關遠松三山奧戶糠山

吉宏子彌明耶助三一治雄一
 良末章晴節武忠良濟斐寬
 奈屋見須木谷原本下野尾
 賀照堀那原春高栗松山海松
 田

石澤寬志
 那須章彌

佐川達太郎

渡邊清作
 瀨川義輔
 岡田鶴雄

青山泰晴
 井口真太郎
 乾市太
 內山光太
 小野村谷忠寬
 小佐藤谷助
 染林山口田野
 林山田野元
 山大足立

治雄助平忠耶三吉二治一巖耶
 卷鐵之運良七宣壽簡英俊三
 野田元藤邊須田根來原口井啓
 庄土新後田黑太藤根池田皿鴨
 松永幸一
 渡邊時敏
 松下宅一

野口悅治耶
 佐川達太郎
 萩野

秋田重季
 池田乙次
 磯岩岡正源
 大馬保庚
 金久保林紫
 小杉山安毅
 富野君
 美山本
 後藤島

阿部一耶
 荒井清藏
 岩田鶴市
 崎貞二耶
 藤村正巳
 米長三造
 野松才龍
 中恒喜耶
 尋尾廣
 尾林節一
 小龍耶

耶夫耶雄景迪耶三耶一志夫喬
 太正一虎延惠市益次陽俊寬敏
 樋中倉口田原和島留地原澤田地
 水田中川小上市樺新川萩石匹草
 清田中川小上市樺新川萩石匹草

稻葉願
 稻葉願

後藤虎雄

後藤虎雄
 喜多川三男次
 折原秀雄

阿部一耶
 荒井清藏
 岩田鶴市
 崎貞二耶
 藤村正巳
 米長三造
 野松才龍
 中恒喜耶
 尋尾廣
 尾林節一
 小龍耶

清繁作耶造耶義二義德耶次
 繁節三耶一義二義德耶次
 文松耕十直種孝正一雅宛
 西田松耕十直種孝正一雅宛
 高山田澤口野賀間生勉木圓宛
 大高德森奧山濱加木蒲堀鈴
 金貳圓五拾錢
 金五圓五拾錢

會員大正十三年度第一期分會費

金六圓宛

會員大正十三年度第二期分會費

金六圓宛

准員大正十二年度第二期分會費

金四圓宛

准員大正十二年度第三期分會費

金四圓宛

准員大正十三年度第一期分會費

金四圓宛

秋岡良太耶
 伊藤川純一
 打岡林田辰實雄進吉夫吉耶吉道
 小籾原阪宮爾英淺二米尻
 篠瀧谷極野村

八吉三三耶治七周也夫松耶惠規吉耶助吾繁坦明七藏一夫耶平耶介治一吉三人弘光二衛憲稔司雄
 源治喜米三春喜勝文竹治正鶴太之金國長嘉金修武四毅太景初毅保逸義達宗遠金國靜鶴
 口藤見嘉村戶岩川田本島川悅田藤森安平野谷藤岡代口岡村木成添藤米合崎崎賀原揚田保原口生田
 谷武新中永小小與山五森野龜衛大大村大神安日木田松與荒光田後久河岡岡古中馬原神篠山左岡

耶耶生耶耶昇馬三文作治作陽三耶平治雄耶六吾光藏雄耶二治市樹吉桂耶義衛司司恭亮吉三網耶
 一太二一俊伊孫清博要治久孝光三嘉傳義福幹一準孝大良秀次忠兵耕一朝昌乙辰末太
 喜銳不仁是川澤田梨藤峰邊澤野田藤十田澤田多善島生禎田藤川中田岡木木島勘川朝昌乙辰末太
 藤藤橋部野川澤田梨藤峰邊澤野田藤十田澤田多善島生禎田藤川中田岡木木島勘川朝昌乙辰末太
 伊近大阿小北相吉木近長渡柳河池齋五園長和富德福麻渡太伊立山小片犬荒西根喜結坂清白高北

耶敏藏吉二一清輔男耶夫彥茂勇次幸重雄耶二耶二雄貫吉正造照新清作彌雄耶榮二美耶薰雄彌吉
 太光岩辰津真元利次矩文清秀太善次鼎三英兼豐義美義孝金正三義第弘三靜文平
 東木井本勝玉浦本邊野江森島井田邊所島田藤木木丸本藤野木瀨村澤色井川西中林上岡田家藤
 藤木井本勝玉浦本邊野江森島井田邊所島田藤木木丸本藤野木瀨村澤色井川西中林上岡田家藤
 佐鈴名梅最兒下山田高入杉八櫻梅渡外副米內青錦四吉鬼佐小高柳今黑一守北中田若坂栗小氏加

耶一六海耶治八穗雄藏一三城治雄治耶雄實平要作藏耶鏡進榮太志吉喜夫耶清耶功耶藏止一治助
 三與官晴二常十瑞武代莊廣千彥利清三博保清文七俊真正修米清一太三三正重庄清
 友田原梶田山本代守島田口野居山田松馬田守嶺邊井田田島藤山部村城瀨田藤木東部水々本林原
 井田原梶田山本代守島田口野居山田松馬田守嶺邊井田田島藤山部村城瀨田藤木東部水々本林原
 福八萩戶字相武田金君內谷小武杉橫赤有岡江長渡新右吉馬佐秋田松小三岡伊正安安清千宮小柏

鬼海治三郎 平野三省
 日高重義 有川米男
 金參圓 志道鐵造

析原秀雄

瀬戸川立男次

准員大正十三年度第二期分會費

金四圓宛 後藤虎雄
 柴田悅太郎 松下宅一
 香坂兼夫 川村龍三郎
 白木左都夫 讚井耕三

渡邊清作 藤總壽
 吉野德一 折原秀雄

千口和正 今泉重清
 榎雄治

准員大正十三年度第三期分會費

金四圓宛 折原秀雄

渡邊清作

學生員大正十二年度第二期分會費

金貳圓五拾錢宛 信澤貞治
 柴崎音次郎 加納治郎

高郷高一

菊地明

學生員大正十二年度第三期分會費

金貳圓五拾錢宛 澤田猛士
 本庄秀一 津下修一
 金壹圓貳拾五錢 高橋佐一

渡部幸三郎 加納治郎

島田義章 中村健一

學生員大正十三年第一期分會費

金貳圓五拾錢宛 山田忠雄
 河澤秀一 安藤俊三
 今井潔 天津路嘉起
 岡田四郎 大矢孝一郎
 長谷川盟輔 居川太朗
 守田道隆 前田秀之
 阿部鐵藏 中川一達
 伊藤春太郎 小林次郎
 清水竹夫 岡村増太郎
 清水力一 井上清基
 西田精一 淺富澤精司
 廣川憲二 室川英一
 沖修造 山本英一
 岡田光一 佐野太一郎
 村上正雄 長谷川六郎
 小林幸治 藤井雄之助
 柴崎音次郎 松本金隆
 友松退藏 西村賀光
 雄川謙三 宮川貞二
 水原譽文 富田龍一
 渡邊儀一 權藤濟美
 高凌義美 鈴木祥六

古市千太郎 堀田讓雄
 堀田山熊 田中敬二
 長谷川昇二 小林佐一
 小大井賢多 石岡正一
 岡田正剛 見山清一
 鈴木茂利 伊藤野起
 水野美代 伊藤野光
 水金谷鄉 高劉田
 長池田 太松武田
 田村庄次郎

目喜多山正 喜坪極小直飯島井齋末佐田北稻黑菊中尻津田内佐宮
 黑山田田山尾崎宮藤松野代林浦田呂地矢高下中川藤元
 清健正廣金了亮和之俊博正鹿久明隆茂修菊龍竹
 雄兒造正實二吉逸介榮男雄孝藏三明雄樹耶知雄夫衛

藤澤 仁
原田 英雄
村上 正雄
鈴木 邦彦
澤田 猛士
後藤 久吉
金六拾貳錢

家根内義一
中村 猛
小野喜久男
小堀 豐作
永俊 熊治郎
小林 勇
津下 修一

小川 俊助
中野 富二
松島 義雄
小林 廣二
小字 野良平

關川 精治
上野 長三郎
梅原 孫兵衛
谷口 成之
中村 健一

學生員大正十三年第二期分會費

金貳圓五拾錢宛
小林 勇

小陳 彌一 郎

佐藤 竹夫

梅原 達也

雜誌閱覽に就ての會告

下記の雜誌本會事務所に備へ付け有之候間御希望の向は下記時間内御隨意御閱覽相成度候

閱 覽 時 間

日曜日祭日休。土曜日午後自一時至同四時。其他自午後四時至同八時。

(但し役員會委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候)

備 付 雜 誌

Concrete and Constructional Engineering
Engineering

發 電 水 力
其他寄贈雜誌

Engineering News-Record

Génie Civil

Railway Gazette

Schweizerische Bauzeitung

Successful Methods

機械學會誌

業務研究資料(鐵道大臣官房研究所)

研究報告(製鐵所研究所)

建築雜誌

工 學

工 學 會 誌

工學部紀要(東大、京大、九大)

工學報告(東北帝大)

工業化學雜誌

工業評論

工 政

港 灣

シ ビ ル

水 曜 會 誌

造船協會々報

煖房冷藏協會誌

帝國鐵道協會々報

鐵 と 鋼

電氣學會雜誌

日本ポルトランド・セメント同業會々報

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配付致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合一部に付下記金額振替口座東京一六八二八に拂込用紙通信欄に其旨記入し請求せられたし

殘 部 内 譯

第五卷一號二號	一部金壹圓
第六卷三號六號	同
第七卷一號二號三號四號五號	同金壹圓五拾錢
第八卷一號二號三號	同金 貳 圓
第九卷一號二號三號	同金 貳 圓
第九卷五六號	同金 貳 圓
第十卷一號二號	同金 貳 圓
東京市内外交通に関する調査書殘部あり	金 參 圓

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

各員の宿所の不明なるときは會誌の配付を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費の支拂には差支なき様御配慮相成たし

會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は左表の通りにして本會より發する振替集金に對し必ず御支拂の事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立共支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に（拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事）御拂込相成度尙整理の都合有之候に付會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相成たし

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月 第一期分二月	自五月至八月 第二期分六月	自九月至十二月 第三期分十月
會 員	金十八圓	金 六 圓	金 六 圓	金 六 圓
准 員	金拾貳圓	金 四 圓	金 四 圓	金 四 圓
學 生 員	金七圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢

新に入會したるものは月割計算とし入會の翌月集金書を發す

會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金集金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配付をも停止せらるるに至るべく又本會に於ても未納金督促の手續一通ならず故に今後右様のこなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年二月四月六月八月十月十二月（印刷又は原稿等の都合に依り翌月上旬配付の事あり）に發行し漏なく配付すべきに付翌月末頃未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配付不可能のことあるべきに付御留意相成たし

領收報告 自大正十三年三月十六日 至大正十三年五月十五日 間受付分(受付順)

會員大正十二年度第三期分會費

金 六 圓 白石 誠 夫君

會員大正十三年度第一期分會費

金 六 圓 宛 小野 常 治君 池田 一 郎君 久永 勇 吉君
楠田 九 郎君 大藏 公 望君 庄野 卷 治君 栗野 定次 郎君
青山 鼎 之 助君

准員大正十一年度第三期分會費

金 參 圓 宛 鏡石 太 伊 藏君 森 志 計理君 川島 輝 猪君

准員大正十二年度第一期分會費

金 四 圓 宛 川島 輝 猪君 齋藤 欽 一君
金 壹 圓 宛 小山 壽 雄君

准員大正十二年度第二期分會費

金 四 圓 宛 胡 嘉 詔君 森 志 計理君 相原 益 隆君
奧田 周君 檜山 千 里君
金 壹 圓 白井 秀 藏君

准員大正十二年度第三期分會費

金 四 圓 宛 勝海 恭 次 郎君 照澤 孝 作君 渡邊 七 郎君
中 垣 巖君 胡 嘉 詔君 堤榮 左 衛 門君 岡崎 保 吉君
伊知地 綱 彦君 齋藤 四 郎君 德田 嘉 久君 金岡 桂 次 郎君
尾立 正 俊君 望月 專 一君 奧田 周君 岡部 啓君
檜山 千 里君 佐藤 廉 平君
金 參 圓 緒方 長 一君
金貳圓六拾貳錢 藤原 健 二君
金 壹 圓 白井 秀 藏君

准員大正十三年度第一期分會費

金 四 圓 宛 白井 秀 藏君 渡邊 彦 松君 中 垣 巖君
阿部 米 一君 重 富 潔君 柴田 鏡 太 郎君 伊知地 綱 彦君
齋藤 四 郎君 長谷川 藤 四郎君 金岡 桂 次 郎君 矢野 鷹 雄君
望月 專 一君 西澤 忠 三 郎君 藤原 健 二君 岡部 啓君
松本 義 一君 島野 真 三君 青木 楠 男君 鋤 柄 小 一君
德永 軍 次君 後 藤 登君 岡山 銀 次 郎君 小川 誠 耳君
澤田 俊 郎君 池田 養 之 助君 深尾 代 治君 山田 安 三君
關 信 雄君 小池 啓 吉君 佐藤 勝 衛君 須賀 芳 政君
岩崎 準 一 郎君 千 陽 勝 郎君 飯田 清 大君 佐々木 善 八君
垂水 輝 治君 坂本 明 榮君 尾崎 義 一君 伏島 信 九 郎君
小宮 益 三君 飯田 龍 左衛門君 佐藤 堤君 安藤 秀 夫君
鈴木 秀 彦君 田 中 寅 男君 戸澤 耿 介君 金井 好 助君
柳 本 新 助君 黒 倉 富 四 郎君 近藤 俊 治 郎君 松本 伊 之 吉君

高板伊寺箕齋下小龍江宗海白小中大草五山橋佐塚神八岸大小松田佐藤柴村境高吉河與奧關杉	橋倉藤田浦藤村如田木像野石林川鹽川十口武本代乙谷島村藤掛田清橋田口村	泰重檜平戒甚右直貴仁次虎幸次治清正太雌女日出保萬慶廉三直勝清甚協六孝三之	介義次郎治二君吉猛君門三郎輔男雄七郎康道直君正三君正次君治章雄平君道藏吉也坦介君藏君	松長濱高小奈須宮芝伊河鈴濱永淺長竹飯別奈吉小山稻近大緒大飯北浮岩高伊佐有阿松土櫻吉	尾川本岡原真茂正敏次忠廣田井見村塚所良谷形葉藤野方野村洲崎藤福浦井田	末本岡原真茂正敏次忠廣田井見村塚所良谷形葉藤野方野村洲崎藤福浦井田	太郎助君肅君衛君樹君夫君藏君造君路君勝君啓誠太綱安肆音大兵洲崎藤福浦井田	三瀨富太飯松高谷山小野河野相磯木島石與阿新矢西荒鼠小友山高岸野濱岩水木岡下武高松白	浦田永島浦桑茂武政常正龍準長新喜井島垣川入川松橋川坂田谷多藤尾富謙	貢雄君壽助君一君二君治君潤君義君二命君知九晴兼豐鑲仙敏市君如君清君一行君市君富謙	松橋近深丸藤工太加山長小山今足荒猿上谷武原高田木菊松馬大鈴岩森阿中木山井高鈴菅成	山田藤井山原藤中島村立谷床口市橋下池久場石崎部山鎌浦島原瀨	正定千貫悅孫明米清七之一正多新久伸未武之正豐秀太隆勝次堯亥之健正勝	一治里君一君三君七君茂君治藏君一松君助君行君一馬君隆君吉郎君助君清君次君白君治君德君一君爾君祐君二志君
---	------------------------------------	--------------------------------------	--	---	------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------	---	-----------------------------------	--	--	-------------------------------	-----------------------------------	---

西千栗白長大笹小森加曾森富河安足大廣白齋長小川藤畑仲辰境田正住天飯石海加木古佐清杉

村葉田井田島倉森藤根岡家野井立坊瀨龜石藤鄉倉田井尾本野奈吉田草田建澤三白賀羽水本

正二忠太武太三太曾正政欣愛三正政久鉄英衛兼耕其卯小治部幸盛憲之萬十三亮內吉幸太

人郎君治郎君治郎君郎君傷郎君一實二君香郎君俊源君藏夫君二友君三郎君夫君義君真君秀君長君美君助君作君郎君十君一君郎君次君

伊丹宮坪越遠片大川高片佐今村坪楠小本兒榑幡江島佐花安龜中佐千清松淺池梅岡桂桑佐進庄

藤生本根前藤山上野橋山藤井瀨井村田庄島木鎌島山藤井部尾山藤田川尾間內澤田川原藤藤子

百一守長信信通等欽好吉郎五勝篤俊為好武卯邪一熊與正忠愛逸直景輝廉清誠

世雄保利吉塚雄一君揚一君治平雄基信二郎己夫次藏伸三一夫郎君吉重雄亮雄義秀實長次治政一

策夫七藏太之君一君吉藏三夫太進六郎君彦助七孝樹郎誠篤八郎治丸最已郎象治豐郎基平郎親

俊素信善三敏準英修末久俊之久一太熊之藤清芳太野真卯太康若克太鹿英治壽藤金壽

杉坂伊村阿朝森小小三淺藤神水古大泉田高本小桑山木河關大原吉聖緒後有井上太笠工古佐志

岡小服多川山川岸木丸原福森中成植岡平矢堤鈴志鈴友坪近堀平井原加原阿井內折金久近鮫清

本細部田谷下原田庭山島義西瀨木喜福四格重直優染豐泰新井越壯稻田部上村原子保藤島水

專英幸三藤清常正忠一正讓三福欣木田永井藤內井越山田部辰龍源彌茂午千

太五郎君一男君吉君一了君道君之平君到君治郎君三英道治藏彦夫君吉力君之輔君茂郎君助郎君勝君吉治

鈴瀨寺	水淵田	千實金	代實金	藏烈司	君君君	關高寺	目杉島	季三塚	靜郎治	君君君	園高調	田木所	博堅武	智護光	君君君	田高長	沼崎屋	實一君	
中長納	村尾富	光昌耕	四昌耕	司郎平	君君君	中濱平	安田井	治義清	君君君	中沼平	野波川	重福保	三福保	郎松一	君君君	永野日	田中野	光太一	
久細森	留田永	善貫鉄	善貫鉄	介藏一	君君君	平瓶森	越田田	清煉	君君君	藤木門	岡多司	末又虎	太虎正	郎雄三	君君君	藤森森	野沼親	弘諭	
諸橫若	川山雄	邦太敏	邦太敏	勇治郎	君君君	山米渡	邊原井	七益重	君君君	木門山	本見尾	司本尾	正胤伴	君隆一	君君君	矢橫有	野森松	諫貴秀	
明池石	林石野	一圓	一圓	夫藏清	君君君	相今池	上田鴻	次政長	君君君	飯今上	久茂藤	島保幸	文正嘉	君君君	井池大	上田西	上城水	善一正	
小河國	合富田	由登與	由登與	夫藏清	君君君	太柏小	谷西木	政長清	君君君	嘉佐杉	茂藤浦	島忠場	文正嘉	君君君	川鵲清	上城水	山吹田	留正新	
島杉高	橋伊道	之太範	之太範	夫藏清	君君君	鈴關津	川本田	正敬恒	君君君	田出永	馬福本	島問田	敬秀一	君君君	杉田富	村尾澤	內義口	四新俊	
永林廣	澤川原	重忠直	重忠直	敏三晴	君君君	橋藤堀	牧山岸	正真之	君君君	福木松	山山青	下田崎	研茂一	君君君	中平藤	澤內浦	義口本	勝見保	
古前水	山野口	增健基	增健基	三晴保	君君君	山山吉	田仙柳	柳七安	君君君	山山青	上野政	野政田	桐原登	君君君	堀三山	浦口名	八洲太	繁爾君	
山橫稻	井葉原	信一政	信一政	治三治	君君君	上大小	島坂山	淺次佐	君君君	青上野	大小梶	古櫻進	高內廣	君君君	遠大尾	部藤森	島合新	多貞八	門治君
荻小神	村梅茂	常貞千	常貞千	治次郎	君君君	梶後齋	下武永	濱福福	君君君	大野政	小梶古	櫻進高	內廣福	君君君	尾河郡	島合新	領木高	常貞四	郎治君
木澤志	竹村內	尾千原	尾千原	治次郎	君君君	武永濱	福福		君君君	野政田	原登庭	來橋藤	瀬井崎	君君君	山鈴武	居本城	多憲千	郎治君	
長林藤	原			治次郎	君君君				君君君	野政田	原登庭	來橋藤	瀬井崎	君君君	山鈴武	居本城	多憲千	郎治君	
福				治次郎	君君君				君君君	野政田	原登庭	來橋藤	瀬井崎	君君君	山鈴武	居本城	多憲千	郎治君	

三浦 守山 青木 淺伊 小貝 近白 高中 林穗 森渡 荒伊 岡緒 棍來 篠餘 高多 郎德 長埔 增柳 吉石 宇荻 大木 倉重 田長

松井 村山 橫田 始粟 澤叶 久坂 武長 原藤 村吉 綿池 內越 河久 佐鈴 關武 恒友 中長 藤森 山伊 漆尾 奧鳴 熊白 田長

實文 忠織 平郁 理延 保島 田中 岡企 田積 氣廣 藤村 山木 島野 田久 井村 本野 山有 上江 太垣 黑酒 園中

藏昇 武金 岩延 厚博 憲真 守亮 隆繁 義止 光誠 八石 貫喜 象發 竹田 勝彌 下崎 邊野 木倉 富江 橋

松溝 築青 飯大 木後 春高 中林 眞山 渡新 飯大 小河 佐島 住玉 陳寺 戶中 深松 山渡 生宇 小河 木久 杉高

永田政一君 中村一造君
 久森正夫君 松井德松君
 村山龜太郎君 森志計理君
 渡邊英保君 勝海恭次郎君
 林有一君 中島洋吉君

永田年君 轟增能君
 水野綱太郎君 三宮守衛君
 山本和吉君 吉田智君
 荒木榮二君 米川敬治君

准員大正十三年度第一期分會費

金參圓宛 柳田癸巳夫君
 金貳圓宛 佐藤盛亮君
 金壹圓六拾錢 郭懷學君
 金壹圓 堤榮左衛門君

准員大正十三年度第二期分會費

金四圓宛 長谷川藤四郎君
 阿部米一君 宗石盛始君
 金貳圓參拾八錢 郭懷學君
 金貳圓 齋藤四郎君
 金壹圓 柳田癸巳夫君

藤原健二君 日比野武雄君
 伊知地綱彦君

准員大正十三年度第二期分會費

金四圓宛 長谷川藤四郎君

佐藤盛亮君

准員大正十四年度第一期分會費

金壹圓參拾八錢 藤原健二君

阿部米一君 藤原健二君

學生員大正十一年度第二期分會費

金貳圓 長久保俊夫君

學生員大正十二年度第一期分會費

金貳圓五拾錢宛 柴崎音次郎君

藤井雄之助君 長久保俊夫君

北澤貞吉君

學生員大正十二年度第二期分會費

金貳圓五拾錢宛 稻葉權兵衛君

兼岩傳一君 只安春重君

高野與作君 石田二郎君

白鳥啓吾君 北澤貞吉君

學生員大正十二年度第三期分會費

金貳圓五拾錢宛 渡邊儀一君

沓掛重義君 平手三郎君

成瀬正成君 白鳥啓吾君

學生員大正十三年度第一期分會費

金貳圓五拾錢宛 權藤濟美君

南出保太郎君 沓掛重義君

平手三郎君 成瀬正成君

鄭在英君

金五拾錢 白鳥啓吾君

學生員大正十三年度第二期分會費

金貳圓五拾錢宛 沓掛重義君

佐藤寬君

學生員大正十三年度第三期分會費

金貳圓五拾錢 佐藤寬君

JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.

(DOBOKU-GAKKWAISHI)

VOL. X. NO. 4. AUGUST, 1924.

CONTENTS.

	Page
Address	
Damages Caused by the Recent Earthquake to the Yokohama Harbour-works, and their Repairs.	
By Kyoichi Aki, Dr. Eg., Member	663
Papers.	
Notes on Radio Towers.	
By Yajiro Nagayama, C. E., Member	707
The Reinforced Concrete Hollow Dam for the Hakodate Waterworks.	
By Motoki Ono, C. E., Member	737
On the Flowability of the Portland Cement Paste.	
By Tokujiro Yoshida, Dr. Eg., Member	761
An Experiment on the Flow of Water at the Outlet of a Channel.	
By Noboru Yamaguchi, C. E., Member	773
On the Nature of Soliditit.	
By Shichiro Uchida, B. Sc., Member	789
Discussions.	803
Notes on Matters of Interest.	815
Abstracts of Selected Articles.	823
Proceedings of the Society.	27—30

OFFICE

1, YURAKUCHŌ, KOJIMACHI-KU, TOKYO.